

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392900029		
法人名	株式会社 日本介護研究所		
事業所名	グループホーム めぐらす刈谷		
所在地	刈谷市神明町4丁目723-2		
自己評価作成日	令和4年12月29日	評価結果市町村受理日	令和5年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和5年1月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街の一角にある3階建ての建物の1階部分に開設  
元々住居として使用されていた建物を1階部分を改装し、オープンいたしました。  
住宅街の中にあるだけに、家庭的な雰囲気を作り出しています。定員は18名(9名×2ユニット)で運営。開設から13日目「安心を大切に」「つながりを大切に」「その人らしさを大切に」「目標を大切に」をGuiDoに挙げ、家庭的な環境を常に意識しながら利用者様の心のよりどころとなる施設を目指しています。庭には季節になると果物を収穫したり、花や野菜を育て楽しみ、毎日の生活リハビリ(体操、歩行訓練、口腔体操、早口言葉等)の実施から心身機能の低下防止を図り、個々の思いを大切に支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

昨年は事業所名の変更に続き事業所のリニューアル工事も行い、フロアは明るく温かい雰囲気に包まれている。職員は法人理念やGuiDoを念頭において時間に追われず利用者一人ひとりのペースにあわせた支援に心掛けている。利用者のレベルにあわせてレクリエーションや生活リハビリとして定期的に体操等実施し機能低下防止を図っている。職員は利用者の声掛けに常に耳を傾け会話を楽しんでいる。また歌の好きな利用者が多く毎日歌っていることが自然と利用者の健康に繋がっているのかもしれない。今後庭の工事終了後は利用者と共に庭の手入れを行い花や野菜を楽しみながら育て収穫しようと計画を立てている。またコロナの状況にも寄るが地域行事に参加し交流の再開を始めたいとも検討している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：良い巡りを世の中へ、お客様へ、社員へ、社会へ思いを巡らせ～の理念やGuiDoをフロアに掲げ、職員が行動に迷ったらそれに基づき行動している	理念をフロアに掲示することで理念に沿った行動が取れるように職員の意識付けを図っている。半年毎に人事考課制度を実施し日々のケアが理念に基づいて支援されてるか職員は評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でクラスターは発生していないが実際にコロナに罹るなどし、交流の機会は減少したが地域活動の清掃活動などに参加している	自治会に加入し回覧板に寄り地域の情報は得られているが、コロナ感染症対策の為交流は難しい状況である。地域住民とは散歩の際等挨拶を交わしホームは周知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方などが訪ねてこられたりした際には、グループホームの特徴などを説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催しているが8月12月はコロナの影響で開催中止をしたが2ヶ月に1度は必ず、お便りを作成し、現状の報告をしている。会議開催の折にはご家族様からの質問に答えるなど対応している。	年六回二カ月毎に開催されていたが、今年度はコロナ禍の為四回の開催となっている。会議ではホームの様子や連絡事項を伝え質疑応答されている。議事録は家族には郵送し市や包括支援センター職員にはメールで伝えている。	参加者からの活発な意見等がでることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務所のみならず、本社からも市町村に質問などし連携はとれている	市の長寿課とは日頃から電話やメールで問い合わせたり出向いた際にはホームの様子等も伝え良好な関係が築かれている。介護相談員はコロナ禍の為受け入れを中止している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関からの出入りは良くしており、また庭でのレクや散歩などを楽しんでいる。身体拘束に関しては全社で委員会の設置をし、定期的開催。また落とし込みは施設会議にて議論し、どうしても転倒リスクの危険がある利用者についてはご家族の同意書の記入をして頂き、記録に残し再三評価している。	玄関の施錠は防犯や安全の為にしている。法人の身体拘束研修の他に毎月一回会議の際に身体拘束、スピーチロックの事例を挙げて話し合い職員は何が身体拘束になるか正しい理解に努めている。日頃から何が見受けられると管理者はその都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全社で委員会の開催と施設会議にて勉強会などを開き、がっかりケアと表して不適切介護にあたるか議論している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	⑦と同様に行っている。1月初旬に入居された利用者様も成年後見制度を利用		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の時間を掛け、利用者や家族が納得できるようにじっくりと契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に質問コーナーも設け、意見や質問を聴取している。また電話などの質問があった場合も即座に回答している	利用者からの意見要望は日々のケアのなかで常に聞いている。家族への連絡はSNSで配信しているが、個々の細かい連絡は電話やメールで報告しその際何か意見、要望があれば聞きだし職員のLINEで共有され速やかな対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員とのショート面談を行い、職員の意見を聞いている。また全体からくるアンケートなどにも回答出来る様にしている。	月一回ショート面談を行っているが、普段から意見が言い易い雰囲気づくりがされている。法人からのアンケートに応えることで職員の意見要望等がホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の人事考課制度を導入し、自己評価によるプレゼンなどを行い、自分のグレートが提案できるシステムが導入されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修や資格取得に向け、全社視点で発信している。また社内版トレーニング動画を作成し、スタッフがいつでも手軽に視聴できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括からの発信をしている勉強会への参加や他事業所へ訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人との面談を機会を作り、本人や家族の要望等に耳を傾けながら、ケアプランに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	⑮と同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階でアセスメントをしっかりと、本人、家族からの要望が大きく違わないように聴取。また入居後からも本人からの聞取り、家族には普段のご様子などを伝え、安心を得ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見極め、出来る事は極力本人の力でやっていただき、利用者様同士はお互い気を遣える環境に置けるようスタッフが見守っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	メールの活用で家族の連絡はスムーズに行えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の対応が緩和された時に、ご家族に外出支援をしてもらっている。また面会にも来て頂いている。	現在時間は制限されているが、家族と面会が出来ている。家族協力のもと病院受診、墓参り、外食、自宅に出掛ける人や行きつけの美容院に行ったり、孫からはがきが届く等馴染みの関係の継続に努めている。ホームに入居してから近所の医院や公園が馴染みの場や人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置も利用者の関係性を見ながら、配置している。また利用者が自然にあつまりやすいようにユニットの枠を超えて集まったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同社内の移動であれば、相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の叶えられる希望はすぐに出来るが、叶えるのが難しい場合、代替えや家族に相談するなどして対応している	一人ひとりに寄り添い、特にお茶の時間などでおしゃべりを楽しみつつ入居者の思いや要望を汲み取り、日常の中でボソッと漏らした言葉も聞き逃さず、職員間で共有している。例えばコーヒーがあまり好きではないことがわかった人にはジュースを勧めたりし、支援がうまくいったことは継続している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントは重要だが、普段の会話からも真実を知る事はある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	㉔と同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が常に職員とのコミュニケーションを取りながら、その人にあった支援を実行し、また施設会議で検討してより良い介護計画の作成に努めている	基本、3か月か6か月ごとに計画を見直す。それに先立ち、毎月入居者一人ずつの様子を施設会議において全員で確認している。見直した計画はできあがった段階で家族に説明、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは介護記録に細かく記載し、足りない部分は申し送り事項に記載、またLINEでグループに送信し、早めの情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調や心身の状態を把握し、計画通りにいかない場合は臨機応変に出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で出来なくなったことが増えているが、インフルエンザの予防接種など地域の開業医まで行って接種したりしている。また体調の異変時は地域の開業医へ情報提供などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の受診は月2回行っている。また専門外の受診でも素早い情報提供書を記入してもらい、受診することができた	協力医を主治医とし、専門科へかかる時には素早く情報提供書をもらい、家族対応で受診してもらっている。昼夜連絡をとれる看護師が本部において24時間指示をもらえるので、緊急時にも職員があわてることがない。訪問歯科も月に二度来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護職員と、介護職員の連携し、素早い対応もできる。また夜間はオンコール体制が出来ており、対応することが出来た		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報はもとより、退院時も病院へ赴き、状態把握を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期になられた場合は社内間の他事業所にご案内すると共に、ご家族とも十分な話し合いを設け、本人の最後となる場所の提供も行っている。もちろん行かれる先の事業所にも十分な情報提供を行っている	入居の際の説明で、重度化したら、この事業所ではケアに限界があるので、系列のほかの施設をすすめるなど退去後の支援を行うことも伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアルを設け、看護師に素早くオンコールするようになっている。また消防署に赴き、職員が救命救急の勉強も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練はメグレスキューの委員会を設け、水や食料品の備蓄に努めている。また消防訓練も定期的に行っている	災害訓練を年に二度行っており、5月は避難訓練、水消火器の使用訓練、通報訓練を、11月は避難訓練を行っている。備蓄も用意している。現在、地域連携も含め、災害対策を見直しているところである。	近隣住民に避難訓練があることを伝え参加を求めるなど、地域との連携がとられることに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全社アンケートを配信し、NGワードやがっかりケアを挙げ、全社員に共有している	ほかの入居者の居室に入ろうとする人が現在いるので、職員がさりげなく言葉がけなどしてプライバシーの侵害がおこらないよう努めている。職員は居室に入る時にノックしたり声掛けし、トイレ誘導も小声でさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も無理強いしないように本人の自己決定を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活習慣を大事にしながら、その人のペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を出来るだけかなえられるよう、また褒めることで本人に自信を持たせるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や行事によって特別食を皆で作成し、作る事、食べる事の楽しみを味わっている	普段の食事はメニューがあり、材料が配達されるのでそれを調理するのだが、できる入居者には洗ったり、切ったり、もりつけたりを手伝ってもらっている。おやつを手作りすることで、希望するものやケーキなど特別な食べ物を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量や食事量の記録、本人に合わせた調理方法などを工夫し、栄養の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回行い、本人が出来る人はやってもらい、出来ない人や十分でない人の支援を行っている。また訪問歯科を入れ、口腔内の観察や治療、また職員への口腔ケアの指導をやってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導はもちろんの事、声掛け等本人の能力に合わせて排泄介助を行っている。排泄用品も無駄の無いように、尿量に合わせた用品を使用している	トイレでの排泄が自立している人もいる。そうでない人にはチェック表を利用して声掛け誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックは毎日確認、便秘になっていないか、便秘になっている場合はなるべく解消できるように水分の促しや薬などを使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設け、声掛けを行い、万が一本人が拒否した場合は職員をかえたり、時間帯を変える、また日にちを変えるなどして支援している	週に二度入浴してもらっている。拒否の人が多く、声掛けや担当する職員、時間をかえながら、気持ちよく入ってもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力に応じて昼寝の時間を設けたり、夜間安眠できるように日中の活動を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的や容量などを周知し、誤薬や落薬のないように十分に注意を払っている。声出し確認、ダブルチェックなど		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合わせ、職員と共にお手伝いなどしてもらっている。またティータイムには本人の趣向に合わせたものを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出も推奨し、出かけやすいように支援している。また一時的な車椅子の貸し出しを行っている。天気の良い日は転倒に注意を払いながら散歩などを楽しんでいる	天気のよい日には職員と入居者が一対一で散歩を楽しんでいる。また、家族と受診で外出するときには、寄り道なども楽しんでもらっている。入居者は正月に帰省したり、外食や墓参りにいった人もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人で管理してもらい、金額も最小限にしている。実際にはお金の持ち込みはトラブルの元にならぬよう出来るだけ断っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望する相手に職員が代理で連絡する支援を行っている。また重要な手紙などは施設に預かりご家族にお渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内では季節に合わせた飾りつけなどし、季節感をあじわっていただいている。飾りつけなどには利用者も作成に参加してもらっている。天気の良い日は庭に出て、お茶やお菓子を楽しんでもらったりしている	居間に季節の飾りつけがあり、ソファでくつろいだり職員と入居者がおしゃべりに花を咲かせたりしている。気候がよい時には庭先でお茶を楽しむ人もいる。入居者同士の人間関係に配慮したユニット配置にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの回りに居室があるので、本人の気分の気分次第でお部屋で過ごしたり、フロアのソファに集まり、皆さんとおしゃべりしたり出来る空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自分で飾りたいものや色紙などを飾ったり、以前趣味で作成していた作品などを飾ってもらっている	以前は仏壇を持ち込んでいた人もいたし、持ち込みは自由であるが、現在は持ち物が多い人はいない。写真や自分の作品を飾っている人もいる。季節の布団や衣類は家族が入れ替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力や動線に合わせ、居室選びをさせてもらっている。またトイレも分かりやすいように表示工夫している		